

2025.01.14 すばる科学諮問委員会 議事録

日 時 : 2025.01.14 10:00 – 15:00 JST

場 所 : zoom 接続

zoom 出席者: 諸隈智貴、伊王野大介、井上昭雄、大朝由美子(10:00-11:00)、
大栗真宗(11:00-)、河北秀世(-12:00)、川端弘治(-10:30, 11:30-)、久保真理子、
小宮山裕(13:00-)、佐藤文衛(11:00-)、下西隆、但木謙一(-12:00)、富永望、
松岡良樹、和田武彦、(ex-officio)植村誠

zoom 陪席者: 宮崎聡、早野裕、神戸栄治、小山佑世、David Sanders (Director's Report only)

ゲ ス ト : 田中賢幸(13:00-13:30)

書 記 : 岡本桜子

=== 今回の A/I 及び議論サマリ ===

- 宮崎所長から観測所の状況について、以下の報告があった
 - 2024/12/6～2025/1/9 の期間、天候は良好だった。12 月上旬に AO-DM3k controller にトラブルがあり調査中である。1 月初めに Popt CCB (主焦点ユニットの鏡筒と望遠鏡構造との接触を検知する装置)の不具合で、1.5 夜の観測がキャンセルされた。
 - 2025 年度の観測所予算は、2024 年度と同程度に維持される見込みである。
 - すばる建設中の 1993 年と 1996 年に起きた人身事故を忘れてはならない。特に 1996 年には 3 名の方が火災により亡くなられた。

(議論)

- Roman-Subaru の協調観測について、観測スケジュールを決めるプロセスにおいて、共同利用のインテンシブ課題と同様に扱う。また 100 夜を「原則的には明夜と暗夜を 50%ずつ」とする案を UM で報告し、コミュニティの意見を聞くことにした。
- 暗夜まわりの観測ラン毎に使う主焦点装置の決め方について、方針案を審議した。時間交換課題についての記述を追加した上で、UM でコミュニティの意見を聞くことにした。
- PFS の 2 次元データ解析パイプラインの開発者に、共同利用課題の PFS の生データへのアクセス権を付与する提案について、審議ののち、一部を改訂するとして承認した。
- ToO インテンシブ課題の応募を受け付ける方針を承認した。UM でコミュニティの意見を聞き、問題がなければ S25B CfP から適用する。
- S25A の共同利用における競争率は、前回よりもやや上昇したものの、過去の平均と比較すると依然として低い水準にある。PFS を使用する課題の採択率は、他の装置と同程度であった。

- すばる 25 周年を迎えて、コミュニティと観測所の考えるすばるの将来を書き残し、すばるの国際的な位置付けと独自性を明確化するために、観測所と SAC が編集委員会を組織し、すばる 3 に向けた文書を作成する。

=====

1. Report from Subaru Telescope (by 宮崎)

- Operation (2024/12/6-2025/1/9)
- Telescope
- Development
- Others

2. 前回議事録の確認、および承認

前回の議事録を承認した。

次回(2/7)から SAC は 9:30 (JST)開始となるので注意を。また 3/11 の SAC は変則的に 9:30-11:30 に開催する。

3. Roman-Subaru 協調観測について

(まとめ)。

Roman-Subaru の協調観測について、steering group の松岡委員より報告を受け、内容を審議した。観測スケジュール決定における優先順位は、共同利用のインテンシブ課題と同様に扱うこととする。また 100 夜は「原則的には明夜と暗夜を 50%ずつ」とする案を UM で報告し、コミュニティの意見を聞くことにした。協調観測と一般共同利用提案のテーマや領域の重複については、継続審議とする。

(詳細)

Roman-Subaru の steering group メンバーである松岡委員より以下の状況が説明された。

- Roman-Subaru 協調観測によるすばる 100 夜の検討が進んでいる。
- 昨年 9 月に white paper の募集を行い、昨年 12 月に第 6 回ワークショップを開催した。white paper の締め切りは今年の 2 月末に延期した。
- 応募者同士で提案をうまくコーディネートできると良い。
- 2025 年の春にサイエンステーマを決め、各テーマに対するプロポーザル募集を行う。

2026 年夏までには steering group でどのような観測を行うか決め、100 夜のパッケージにまとめて、SAC に提出する予定である。

- 国立天文台と JAXA の間で結ばれた MoU によると、Subaru-Roman 協調観測のための 100 夜は、すばるの共同利用時間から提供される。100 夜を使う観測の内容は steering group がプロポーザルを出して、SAC が審議の上、承認する。また、採択された観測の実施はすばるの open-use policy に従う。
- 現状、PFS、次に HSC の需要が高い。ULTIMATE や系外惑星の提案もあった。
- SAC での要検討事項は、
 - (1) 100 夜に対する明夜/暗夜の配分をどうするか？
 - (2) 協調観測とテーマ・領域が重複する一般共同利用課題を認めるか？ の 2 点である。

(議論)

但木：この枠組みに日本の研究者はどれだけ絡めているのか？資料には半分くらい日本人研究者の名前が見えるが、すばるを 100 夜も使うので、日本の若手研究者のキャリアに繋がられると良い。

松岡：ワークショップの参加者は徐々に増えている。white paper も広く公募しているので、新規に参入しやすい形にはなっていると思う。ただ敷居の高さを感じている人もいるかもしれない。white paper をリードするには今からの参加では遅いかもしれないが、研究グループへの参加の呼びかけは、これからもやっていくべき。

但木：歓迎すると言われても、実際にはあまりそのように感じないこともあるので、配慮してもらえると良い。

松岡：Roman-Subaru に関する情報が少ないとの声も聞くので、努力が必要だと認識している。

富永：これは SSP のように、日本人なら誰でも入れるのか？観測を提案したり、データを使えたりできるのかなどが知りたい。

松岡：データは誰でも使えるようになる。steering group では 100 夜の枠組の中で 2,3 の大きめのプログラムが走ることを想定している。チームに観測段階から加わりたければ、もちろんチームリーダーに個別にコンタクトすることになる。提案チームにデータの優先権はあったかどうか？

宮崎：チームにデータ占有権はない。proprietary period はなく、すぐに一般に公開されるはずだ。解析処理に掛かる時間がまだ未知数だが、適切な期間内に公開される。

諸隈：大きめの 2,3 つのプログラムにまとめるとのことだが、2026 年の夏頃に SAC に対して複数の提案が提出されて、それぞれの内容を SAC で審議することになるのか？

松岡：SSP のように、一つにまとめた提案が SAC に出されて、SAC はそれが適切であるかを審議する。スケジュールは Roman の打ち上げに合わせているが、すばる側で 100 夜をすぐに割り当てられるかなど、これから調整が必要な部分も多い。すばると Roman の同時観測の要求もあり得るので、打ち上げのタイミングまでに十分に用意しておきたい。

諸隈：MoU に書かれている Subaru open-use policy とは、具体的に何かの文書を指している

のか？

小山：悪天候で失った時間の補填はしないことなど、共同利用課題と同様に扱うことを想定していたが、それ以外は厳密ではない。共同利用のノーマル課題よりも先にスケジュールされることから、SSP に近い位置付けになるのではないかな。

諸隈：Roman-Subaru の観測は 10 年間だったか？

小山：5 年がベースラインで、セメスターあたり 10 夜を使う予定だ。Roman の運用計画に合わせてあるが、後ろ倒しになるのは問題ないという声が、ワークショップでは多かったように思う。

諸隈：観測開始は S27AB 頃が予想されるが、まだ PFS-SSP が走っている時期に 10 夜は入るのか？

小山：入るが、共同利用の枠がぎりぎりになる。

井上：MoU に関して、すばるの観測をスケジュールする上で、この Roman-Subaru の 100 夜が、共同利用(ノーマル、インテンシブ)と SSP のどれに位置づけるのかについて、SAC で議論すべきことではないか。今回決めて、UM でユーザーの意見を聞けると良い。Rubin も同様ではないか。

宮崎：Rubin は Keck/Gemini との時間交換のような形なので、日本側の入る余地はない。

井上：それは位置付けを考える必要はないのか。

宮崎：時間交換と同じ扱いになる。

井上：時間交換では向こうから返ってくる夜数があるが、Rubin は何があるのか？

宮崎：日本人の LSST Data access right の形になる。

諸隈：Roman-Subaru について、ノーマル課題、インテンシブ課題、SSP のどれに近い扱いになるのかは、この場で議論したい。

井上：SSP かインテンシブかによって、夜数が DDT 時間と共同利用時間でどのようにカウントされるか、変わるようだ。SSP は夜数の 25%が DDT と数えられている。SSP のように扱うとすると、100 夜中の 25 夜は DDT からの拠出になるのではないかな。インテンシブは全て共同利用である。

諸隈：小山さんのシミュレーションでは、夜数の 100%を共同利用と仮定していたのか？

小山：そうだ。共同利用として扱うと想定していた。

井上：それでは共同利用として、インテンシブ扱いが妥当か。

富永：TAC で配分する時間の制限(共同利用時間を何割以上確保など)にこの計算が関わるのか。

井上：共同利用で使える夜数の 40%以上をノーマル課題にする制限だったか？

小山：そうだ。

諸隈：SSP かインテンシブかについて、他にご意見は？

富永：SSP は日本人なら誰でも入れるが、インテンシブはそうではない。

大栗：100 夜という特別な取り決めで行われるものなので、既存の枠組に当てはめる必要はないのではないかな。

井上：スケジュール割り当てでの優先順など、扱いを決めるための議論だろう。

井上：時間交換的ということは、Rubin も 100%共同利用ということで良いのか。

宮崎：DDT は SSP を除いてほとんどが試験観測に使われている。DDT を新たに使うとなると、これらの試験観測を減らすことになる。

神戸：PFS の試験観測が落ち着くであろう。今後数年間是对応可能かもしれないが、ULTIMATE の試験観測が増える時期は心配である。望遠鏡等の老朽化対策の工事も多く予定されている。

井上：SAC としては、何がユーザーに適切なのかを判断する必要がある。

諸隈：試験観測を減らすと、観測所の健全な運用が難しくなるということか？

宮崎：そこまでは言っていない。実施した試験観測については、これまで正式な報告例が少ないので、UM などでの報告を実施チームに求めているところだ。今後、調整などにより試験観測が減少し、本来の意味で DDT を活用できるようになれば、将来的なインドとの国際共同運用に向けて、戦略的に活用したいと考えている。

大栗：Roman-Subaru の観測時間を SSP 的に扱うかどうかについては、共同利用的でよいと考える。

諸隈：共同利用の枠組に則り、また 5 年の計画であることから、共同利用のインテンシブ課題的な扱いにするという SAC 案で良いか。日本の若手研究者の参画しやすさやデータ利用については、steering group に検討を促したい。

井上：新規参加とデータ利用のしやすさは非常に重要だと考える。

井上：100 夜の明夜と暗夜のバランスはどうだったか。

諸隈：報告にあったシミュレーションでの暗夜 70%という数字は、何かを元になっているのか。

小山：根拠はないが、暗夜の要求が多く、とりあえず 70%でシミュレーションしたということ。

大栗：夜数が多くインパクトが大きいので、目安は半々が良いのではないかと。HSC は gray 夜でも実施できる課題があれば run を半月よりも延ばす運用を始めており、PFS もおそらく同様な運用になると思うと、HSC と PFS の観測でも明夜を使う場合が出てくるだろう。その点も考慮して半々が良いと思う。

富永：明夜と暗夜を半々にすることに賛成する。時間交換なども目安はあるのか？

小山：時間交換に強い制限はないが、目安はある。ただ場合によっては偏ることもあった。

諸隈：steering group で検討する 2026 年春頃には、明夜と暗夜の制限についての情報が欲しいか？

松岡：もっと前、各自がプロポーザルを書く段階で欲しい。テーマを決めるのにも装置は影響してくるので、早ければ早いほど良い。

諸隈：ベースは明夜と暗夜で半々が良さそうに思う。暗夜がもっと必要であれば、steering group が SAC を説得する必要があるだろう。次の UM でこの案について、ユーザーの意見を聞く。

井上：半月を越えた部分まで HSC と PFS を使えろと考えるとありかも知れないが、50%ずつと数字で言われると、Roman 側で準備する研究者は辛いかもしれない。SAC としては「原則的には 50%ずつ」などの表現が良いのではないかと。

諸隈：そのように思う。

冨永：UM で決めてしまうと、そこから変更するのは難しいのではないかな。

諸隈：UM では意見を聞いて、最終的には SAC 判断になると考えている。

諸隈：審議事項(2)の協調観測とテーマ・領域が重複する共同利用提案を認めるかについてはどうか。

松岡：今決める必要性はないように思う。協調観測に選ばれた課題に対して、一般共同利用で同じプロポーザルが出せなくなるかというところだ。

冨永：日本人が誰でも入れるかどうかにも関わりそうだ。データがすぐに一般公開されて使えるとなると、アーカイブにデータがある状況なので、データの重複は認められないのではないかな。

諸隈：近未来に実施する協調観測との重複をどう扱うかという部分もある。

井上：Roman-Subaru の協調観測は、大きな 2,3 課題にまとめるということだが、それに含まれなかった提案は、一般共同利用に応募して良いと思うが、いかがかな？

諸隈：それはもちろん問題ないだろう。

井上：選ばれたテーマでも、協調観測の枠組だけでは時間が足りない場合に、追加で一般共同利用への応募を認めるかどうかについても、議論したほうがいいかもしれない。

諸隈：この件は継続議論とする。

諸隈：今日の議論を踏まえて、UM 初日午後の Roman セッションで、明夜と暗夜のバランスについての議論の時間も確保する。Roman の講演を行う住さんに諸隈から連絡する。

4. すばる UM FY2024 準備

(まとめ)

UM のプログラムがほぼ決まった。一般口頭発表の申し込みは 19 件あり、うち 18 件の講演時間を確保した。またポスター講演は 30 件である。

(詳細)

UM 世話人代表の佐藤委員より、以下の準備状況が報告された。

- UM のプログラムがほぼ決まった。一般口頭発表の申し込みは 19 件あり、うち 18 件の講演時間を確保した。またポスター講演は 30 件である。
- 各セッションの座長は、UM に現地参加される SAC 委員にお願いしたい。メモ取りも依頼するかもしれない。
- Final circular は UM の 1 週間前くらいに流す予定。その前に講演者には確認のメールを送る。

5. 主焦点装置観測ランの決め方

(まとめ)

観測ラン毎に使う主焦点装置の決め方について、方針案を審議した。時間交換課題についての記述も追加して、また方針について UM でコミュニティの意見を聞くことにした。UM での議論に応じて、もし間に合えば S25B CfP から適用する。

(詳細)

井上委員より、観測ラン毎に使う主焦点装置の決め方について、以下の検討結果が報告された(資料あり)。

各セメスターで HSC と PFS の配分を決めるための方針案を策定して、公開文書のドラフトを用意した。以下のポリシーと判断プロセスをユーザーに公開する。

- スケジュール優先順位：SSP、HSC と PFS に必須な試験観測、インテンシブ、ノーマルの順
- タイムライン：
 - CfP 前に SSP と採択済みインテンシブ課題 PI にスケジュールの希望を聞き、それをもとに HSC と PFS の割当観測ラン数と夜数の試案を作成する。
 - HSC と PFS の観測ラン数と夜数の試案を CfP で公開する。
 - TAC 審査では、レビューに基づいて採択課題を決め、試案のスケジュールに当てはまるか確認する。入らない場合は調整を試みる。
 - TAC 審査後、必要なら SSP や採択済みインテンシブ課題との調整も行う。調整後にどうしてもスケジュールできない課題は不採択にする。

(議論)

宮崎：スケジュールの試案を CfP で公開する理由は何か？応募者の自然な発想に影響を与えないか？PFS の利用可能予定夜数が多い場合に、PFS を使う提案を書こうという影響があるのではないか。

井上：提案者に影響を与える情報であり、まさに議論が必要だ。提案者の立場で言うと、情報があつた方が自分で判断できて良いように思う。

諸隈：影響しうるとはいえ、HSC と PFS の採択率等には差が出ないようにモニタすることになっている。

井上：その通りで公平性は担保されている。ユーザーに判断の選択肢を与える意味で、公表した方が良いと思った。

大栗：全体的に良いと思う。スケジュールの試案の公表については、「変わる可能性がある」と明記することが重要であり、その点を踏まえれば、宮崎さんの懸念も解消されるのではないと思う。また、時間交換の課題についても、せっかくなら文書に記載した方が良いのではないか。

井上：時間交換課題は TAC 審査時には決まっていないので、TAC 審査後に差し込まれる。

大栗：それも書いた方が良くはないか。

井上：時間交換課題は主焦点だけに限らないが、書くことは検討する。Rubin についても書くか？

宮崎：Rubin は時間交換と同様になることを想定しているが、所内でももう少し調整する必要がある。

小山：Rubin 側からも、時間交換と同様の枠組で行いたいとの希望を聞いている。Gemini と同じようなタイムスケールなのかはこれから確認するが、現実的には Gemini と同様と想定している。Keck と Gemini から課題が届いてから、それに基づいて HSC と PFS の装置スケジュールを変えることは難しいと思うので、事前に装置スケジュールを先方に伝えられると良いが、難しいか。

井上：この文書は、現在行われていることを明文化したものなので、「時間交換課題は TAC 審査後に best effort でスケジュールする」と書くことにする。

諸隈：UM で本件について紹介して、意見を聞くことにする。

井上：その後、2 月の SAC で承認すれば S25B Cfp に間に合うか？

神戸：2/4 に Cfp を出す予定なので、間に合わないと思う。

井上：UM 後にメール審議して、問題がなければ S25B、間に合わなかったら S26A からになるか。

諸隈：特に S25B Cfp に間に合わせる必要はないと思うが、UM での議論によるだろう。

6. PFS 生データアクセス権

(まとめ)

ゲストの田中賢幸氏より、PFS の 2 次元データ解析パイプラインの開発者に、共同利用課題の PFS 生データへのアクセス権を付与する提案ついて、提案書を元に説明を受けた。審議ののち、一部を改訂することで提案を承認した。

(詳細)

ゲストの田中賢幸氏より、PFS の 2 次元データ解析パイプラインの開発チームに対して、共同利用課題の PFS 生データへのアクセス権を付与する提案ついて、提案書を元に以下の説明を受けた。

- PFS の 2 次元データ解析パイプラインは、生データである 2 次元データから切り出して science ready なスペクトルを作るものであるが、まだ開発が必要である。
- 開発チームは SSP データにはアクセスできるが、SSP でカバーされないような天体や観測方法などもあり、一般共同利用観測で得られたデータも使って開発したい。
- 実際にはプリンストン大学の 6 名程度にアクセス権が必要である。アクセス権を持つメンバーは PFS プロジェクトオフィスが適切に管理する。

- このアクセス権は、SSP の観測期間に限らず、その後も必要である。

以上について審議ののち、一部を改訂することで提案を承認した。

(議論)

富永：プロジェクトの人は、今は生データにアクセスできるということか？

田中：試験観測データにはアクセスできる。一般共同利用観測のデータには PI と co-I しかアクセスできないので、今回依頼している。

松岡：プリンストン側は、SSP を終えた後も彼らにメリットはないが、パイプライン開発に加わってもらえると思っていいのか。

田中：実際に、プリンストン側がいつまでエフォートを割いて開発を続けるかは未定である。しかし、根幹となるコードはプリンストン側が作成しているため、問題が発生した際に問い合わせが必要となる可能性は十分にある。その際、彼らがデータを閲覧できる環境が整っていることが望ましい。

井上：ユーザーサポートとしてヘルプデスクができると思うが、それとの関係は？

田中：ヘルプデスクは、パイプラインのインストールや基本的な使用方法をサポートし、ユーザーとの対応窓口を担う。パイプラインの中身全てをカバーするのは難しいだろう。実際に深い問題を解決する必要がある場合には、プリンストンのパイプラインチームと直接やり取りを行うことになる。

井上：問題が出た場合、その都度、アクセス権を付与することもできるのではないか。

田中：共同利用では 1 枚のデータに複数の PI が関わっており、手続きが煩雑になるので、今回提案しているようなルールを整備しておきたい。ユーザーにデメリットはないように思う。

松岡：プリンストンで想定される 5,6 名の全員がアクセスできた方が良いのか？代表 1 名の任期なしの研究者に限定するのは難しいのか。

田中：人を絞るということか？

松岡：代表者が担当する方が、アクセスされる範囲が限定されて良いように思った。

田中：開発の実態として、一人がパイプラインの全てをカバーしているわけではなく、各人の担当箇所がある。問題が起きた箇所の担当が見る方が、効率が良い。

松岡：何かあった場合に、責任を取るような方が決まっていると良い。

宮崎：プリンストンの研究者が率いている人たちは、ある時点以降はやらないと言っている。メンバーシップの範囲と年限を明示しておいた方が、実務上、良いように思った。年限を超えて頼むこともありうると言っていたが、まだ合意はしていない。いつまでもアクセスを認めるのは健全ではないように思う。

田中：コミュニティから認められた後、プロジェクトオフィスが管理する際に、詳細を決めていくのかと思う。

宮崎：それは PFS A-project のことか？

田中：観測所で PFS を開発している方々を想定しているが、必ずしも A-project と一致しな

いのではないか。

宮崎：PFSの運用が軌道に乗った段階で、A-project office は解散して観測所に吸収されるので、長期的には観測所で管理する必要がある。

神戸：STARS でアクセス権を設定しないといけないので、A-project よりも科学運用部門で管理するべきだろう。

諸隈：データに触るのはプリンストン側かもしれないが、問題が解決したかどうかの議論には、プリンストン以外の人も関わるのではないか。その人たちも、データにアクセスしたことになるのではないか。

神戸：その部分に関わる人たちにもアクセス権が必要だ。

諸隈：その意味で、提案書の文中の「パイプライン開発チーム」や「プロジェクトオフィス」等の用語について、状況を知らない外部の人が後々に誤解しないような書き方にしていきたい。

田中：「パイプライン開発チーム」が指すものについて、機関名を書き下すということか。

富永：アクセス権を必要とする人々を新たに定義してはどうか。定義された人々のリストを、ハワイ観測所が管理する。

諸隈：その方向でも良いかもしれない。

神戸：観測所側としても「PFS パイプラインチーム」の定義をはっきりする必要がある。

それに基づいて、科学運用部門がデータアクセス権を各人に付与する。PFSはA-project・装置開発チーム・コラボレーションなど体制が複雑なので、整理が必要だ。「パイプラインチーム」が何をする組織で、誰がメンバーなのか明確にしてほしい。

宮崎：期間も書いて欲しい。Appendix でも良いので、後々の人が困らないようにしてほしい。

神戸：プリンストン（の研究者）との契約にもよるが、その契約を終えたらアクセス権もなくなるのが良い。

宮崎：パイプライン開発はMoUを結んでやっているのか？

田中：PFS collaborationに入った時のMoUはある。

宮崎：そのMoUに期日が書かれているなら、この文書に書くのは不要だと思うが、もし記述がないのであれば、本文書で定めておくのが良い。

田中：期間などについて、チーム側でまた議論する。UMで提案する予定だが、修正が必要か。

宮崎：所属機関と人数などがあれば伝わるのではないか。

田中：パイプラインチームの機関名と人数を明記して、規模感がわかるように改訂して、UMで提案する。

諸隈：この改訂案を、SACとして承認する。

7. ToO

(まとめ)

ToO WG による検討結果について審議した。ToO インテンシブ課題の応募を受け付ける方針を、UM でコミュニティの意見を聞き、問題がなければ S25B CfP から適用する。

(詳細)

ToO ワーキンググループを代表して諸隈委員長より、ToO のインテンシブ提案の検討結果について報告された。以下の案を UM でも報告し、コミュニティの意見を聞き、問題がなければ S25B CfP から適用する。

- ToO インテンシブ課題の応募を受け付ける。
- セメスターごとにトリガーできるのは 5 夜以下とする。
- セメスター上限は 6 セメスターであり、合計 30 夜まで要求できる。
- 要求の仕方は「X semesters に渡って Y 夜」というような形にする。
- Keck 装置は不可。Gemini 装置は LLP の枠組を通して使うので B セメスターのみ受け付ける。
- 補填はノーマル ToO 課題と同様にする。補填時間の単位は半夜。
- 1 夜の間での複数装置の利用は、運用上可能であれば認める。
- ToO トリガーからプロテクトされる課題は、TAC 採択時に天体の事情のみで判断して、web で公表する。
- ToO トリガーは TAC がつける priority に従う。
- トリガー期限は設けず、希望をプロポーザルに明記してもらう。

(議論)

川端：後半部分はインテンシブに限らず、ノーマルの ToO 課題にも適用するのか？

諸隈：そうだ。

川端：Gemini 装置を使う課題を、B セメスターの受付だけに制限する理由が理解できなかった。

諸隈：Gemini 側が LLP を受け付けるのは B セメスターだけだが、すばるコミュニティ側からの Gemini 時間は、セメスターごとに Gemini 側に通知するが実質的にすばるとしては複数セメスターにわたって同一プログラムに対して時間を確保している、ということが可能になってしまう。これは Gemini コミュニティから見ると不公平なので、公平性の観点から合わせた。

松岡：セメスターあたり 5 夜について、ToO ではないインテンシブ課題にこの縛りはない。5 夜にした理由は何か？

諸隈：1 セメスターに 10 夜より、複数セメスターの要望が多いと判断した。また補填が大変であることも理由の一つである。

松岡：晴天率 70%を考えると、non-ToO インテンシブの 40 夜は実質的に晴天 28 夜相当になるので、30 夜はすでに同等と見なせるのではないか。

富永：ToO をトリガーした後で悪天候になった場合にも、使用夜数にカウントされているので、天候ファクターは導入しないという議論になったと思う。

松岡：その辺りは、継続審議していただければ良いと思う。

諸隈：ToO は UM の 2 日目に議論する予定なので、その際にユーザーからの意見を募る。

8. TAC 報告

(まとめ)

S25A の共同利用における競争率は、前回よりもやや上昇したものの、過去の平均と比較すると依然として低い水準にある。PFS を使用する課題の競争率は、他の装置と同程度であった。学生による課題の応募および採択数は増加傾向が継続している。S25B からは、研究分野のカテゴリーの一部を再編する予定である。

(詳細)

TAC の植村委員長より、S25A の採択状況について説明された。

- ここ数セメスターで件数ベースでの倍率が 2 倍を下回っていたが、S24B, S25A では少し盛り返した。夜数ベースでも競争率は 2 倍程度上がった。ただし歴代の値に比べるとまだ低い。
- インテンシブは 3 件の応募中(うち一件は ToO で却下)、1 件採択。ここ数セメスターは観測夜数のうちインテンシブの割合が少なかったが、S25A では少し上がった。
- 装置別の採択率では、PFS の採択率は他の装置と同程度で、HSC とのバランスも良かった。分野別の応募数の傾向もこれまでと同様の傾向である。
- 学生課題について、全体に対する応募割合も採択割合も、DA 制導入後に増加傾向である。
- サービス課題の応募件数は下がっている。そのうち実施された割合は変わっていない。
- 時間交換枠もこれまでと同様の傾向である。
- ジェンダーバイアスに関して、S24B および S25A では女性 PI の採択率がやや低下したものの、引き続き動向を注視したい。
- S25B CfP から、一部のサイエンスカテゴリを再編する。
A2 を Evolved Extrasolar Planets と Young Extrasolar Planets に分け、Young Extrasolar Planets を B1 に移す。また Planet Formation を新設して、従来の Star Formation and Young Disk を Star Formation に変更する。
- PFS community fille と SSP 内の filler について、重複制限は不要と SSP チームから回答を得た。

(議論)

松岡：学生の応募数が増え始めた時期について、学生 PI が山頂観測できるプログラムもそ

の時期にはじまったので、影響があるのではないか。

植村：そのように思う。

松岡：PFS の競争率が他の装置と同じだったことについて、throughput が半分だったために夜数は 2 倍にして割り付けたと思うが、それを加味するとどうか。

植村：装置によらずスコアの高いものから採否を決めて、PFS 観測夜を配分した結果、自然にこうなったので、変化はない。

但木：A2 と B1 を統合することについて、カテゴリーを 3 つに分けると、各カテゴリーのプロポーザル数が減少するように見えるが、問題はないか？

植村：Evolved Extrasolar Planets は引き続き A2 に残し、Young を B1 に統合するため、問題はない。

井上：S25A で C3 カテゴリーが急に伸びているのは、PFS を使う課題が多かったからか？前 TAC で、銀河考古学を C3 に統合した頃から増えているようにも見える。

植村：S24B との差を PFS で説明できる訳ではない。

井上：では銀河考古学自体が盛り上がってきているということのようだ。

9. Subaru 25th anniversary

(まとめ)

すばる 25 周年を迎えて、コミュニティと観測所の考えるすばるの将来を書き残し、すばるの国際的な位置付けと独自性を明確化するために、観測所と SAC が編集委員会を組織して、すばる 3 に向けた文書を作成する。

(詳細)

すばる 3 に向けた文書作成の方針について、観測所の小山さんから説明された。すばる 25 周年を迎えて、コミュニティと観測所の考えるすばるの将来を書き残し、すばるの国際的な位置付けと独自性を明確化して、パートナー獲得につなげたい。検討事項は、やるかどうか、編集体制、分量、公開方針、内容などである。

(議論)

宮崎：国際共同運用を模索する中で、このような文書が外国の天文学者だけではなく、Funding Agency などが読んでわかるような形で書かれていると良いと思う。

諸隈：SAC として大枠では、文書を作成する方向で合意できている。

小山：観測所と SAC で、どちらが主導するか。

諸隈：編集委員会を作ることになると思うが、観測所と SAC 以外から募るかどうか。

小山：さまざまな分野からユーザー代表として SAC に入っているため、観測所と SAC メンバーで閉じていても十分かもしれない。

久保：執筆者には、若手研究者も含めると良いのではないか。10 年後にまた作成する場合

にも経験が引き継がれる。

小山：募集するよりも、直接依頼するのが良いかもしれない。次の UM の所長報告か SAC レポートで、このような文書を作ることと、執筆を依頼するかもしれないということを伝えるのが良いか。

小山：編集委員会の組織はどうするか。SAC で立候補してくださる方がいたら、個別にご連絡いただきたい。

諸隈：台長からの諮問事項にもあるので、UM では SAC report の中で紹介する。

次回は 2/7 JST 開催